

東京湾海況情報 19-02

東京湾水質調査結果（平成19年5月分）

平成19年5月14日
 千葉県水産総合研究センター
 東京湾漁業研究所
 〒293-0042 富津市小久保3091
 TEL 0439-65-3071 FAX 0439-65-3072
 E-mail futtsu-gk@mz.pref.chiba.lg.jp

東京湾水質調査結果(平成19年5月分)

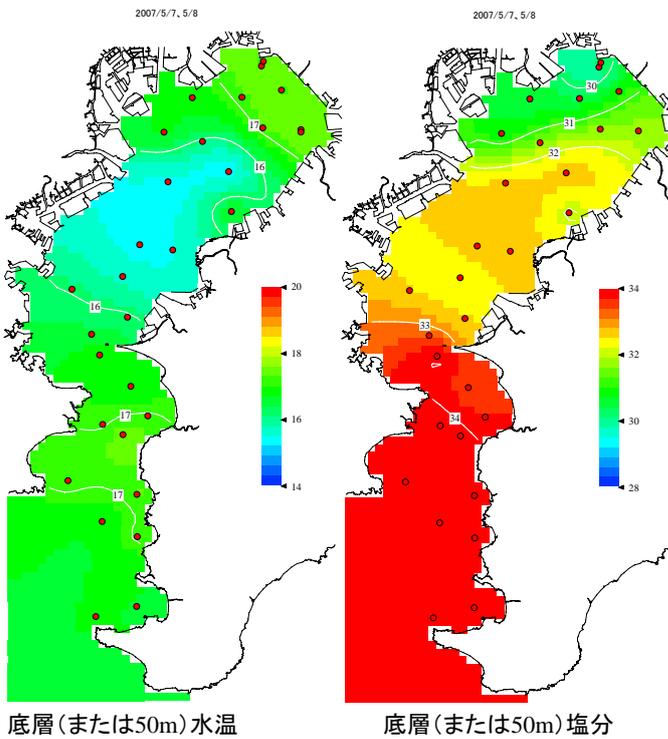
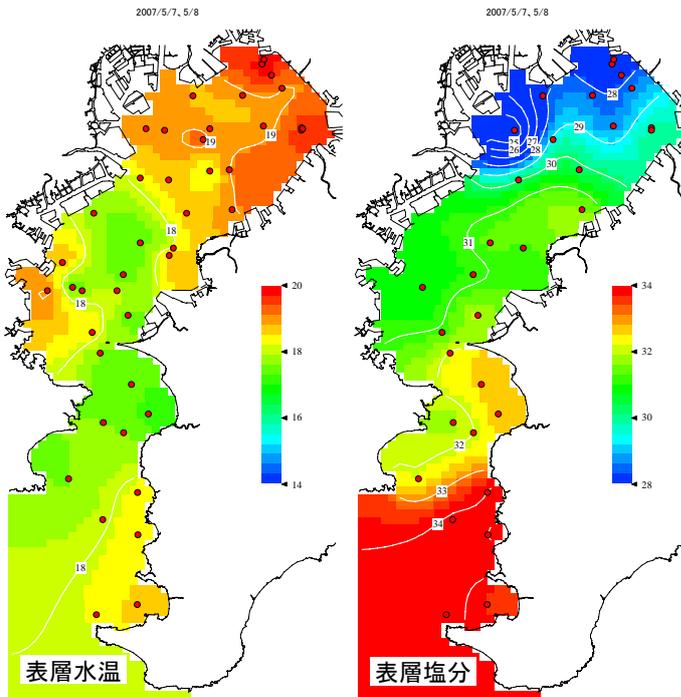


図1 東京湾の水温・塩分分布

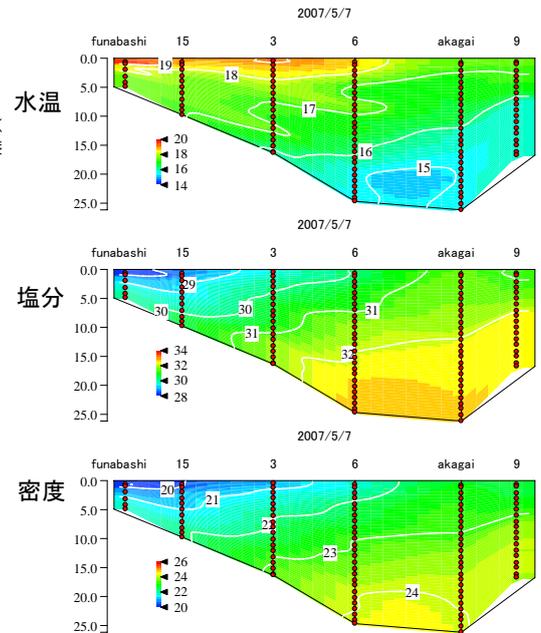


図2 内湾の鉛直分布

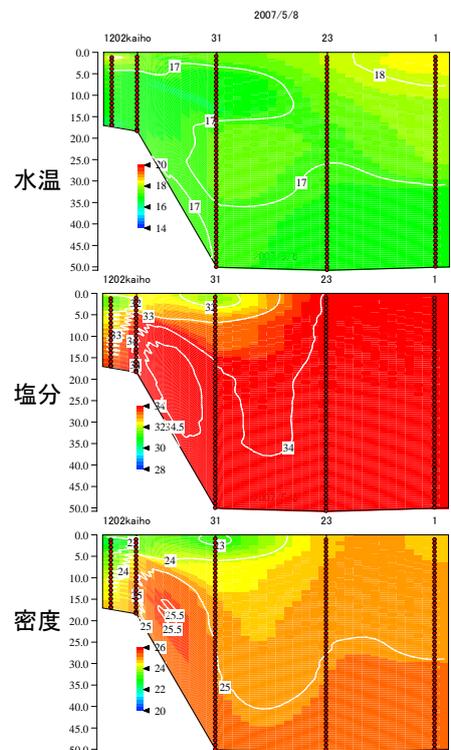


図3 内房の鉛直分布

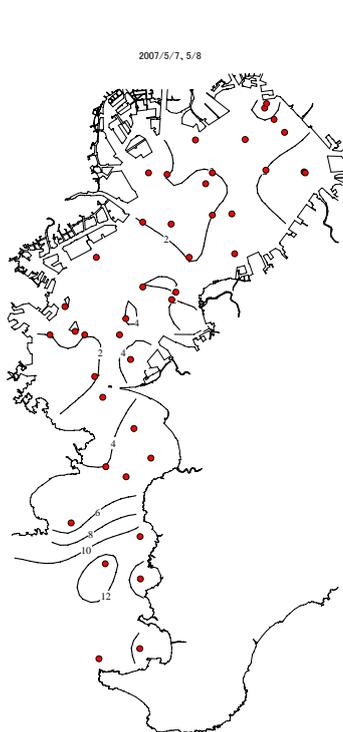


図4 透明度の分布 (単位: m)

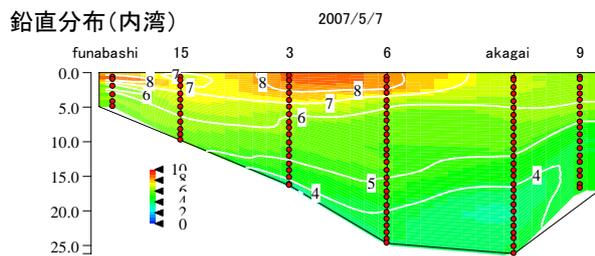
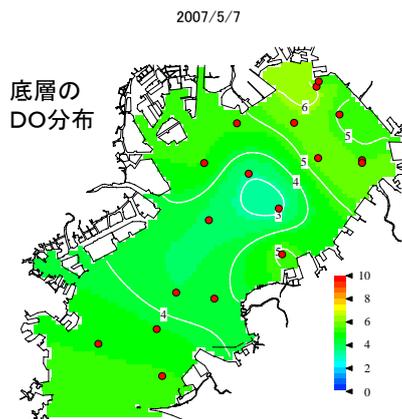


図5 内湾のDO分布 (単位: ml/L)

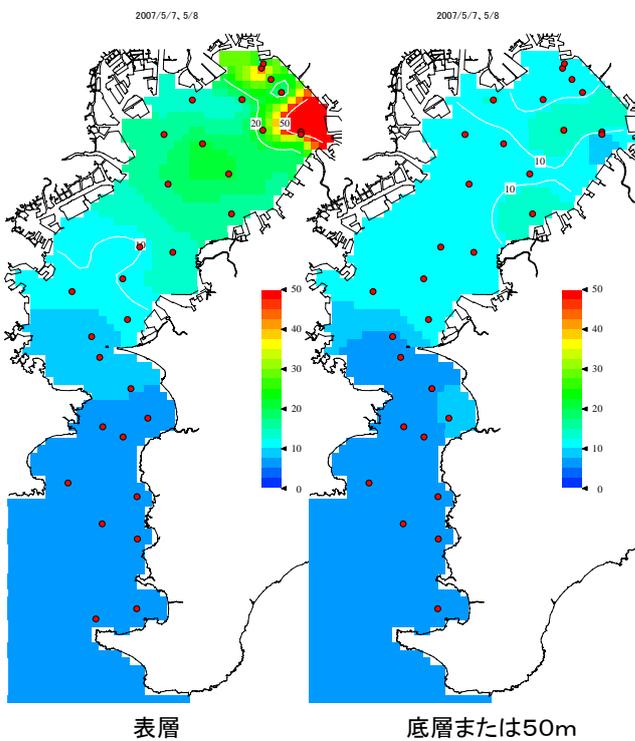
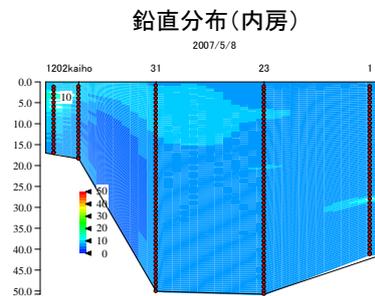
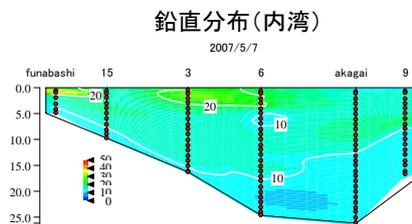


図6 クロロフィル a の分布 (センサー補正值、単位: $\mu\text{g/L}$)



水温・塩分(図1~3、表1)

表層の水温は、内湾は17~20℃、内房は17~19℃で、内湾・内房ともにほぼ平年並みでした。表層の塩分は、内湾は25~32、内房は31~35で、内湾・内房ともに(ほぼ平年並み)でした。

南北縦断ラインでの水温と塩分の鉛直分布は、内湾は水温14~20℃、塩分は28~33でした。内湾最深部の水温は、前月は鉛直的にほぼ一様でしたが、今回は2~3℃差が出ていました。内房は、水温は16~19℃、塩分は32~35でした。

赤潮の状況(図4、6、表1)

船橋から千葉灯標にかけての沿岸海域に赤潮が発生していました。特に、千葉灯標は水色が茶褐色、透明度1mの濃い赤潮状態でした。

出現したプランクトンは、ほぼ渦鞭毛藻のプロロセントラム ミニマム(*Prorocentrum minimum*)のみでした。透明度は、内湾は1~5m、内房は2~13mでした。

表層のクロロフィルaは、内湾は10~70 μg/Lであり、千葉港が高かったです。内房は7 μg/L以下でした。

千葉県の赤潮の目安(内湾海域)は

「海色:オリーブ色~褐色、溶存酸素の飽和度:150%以上、透明度:1.5m以下、pH:8.5以上、クロロフィルa量:50 μg/L以上」としています。

貧酸素水塊の状況(図5、表1)

貧酸素水塊の発生は見られませんでした。

なお、水産総合研究センターでは溶存酸素量2.5ml/L(飽和度50%)以下を貧酸素水としてしています。

黒潮の動き(図7)

5月7日の一都三県漁海況速報によると、黒潮は伊豆半島東側を北上し、房総半島に接近した後東北東へ流れていました。東京湾口部への大きな影響はないものと思われます。

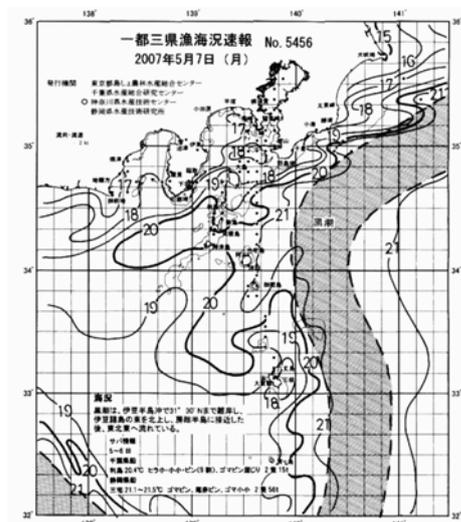


図7 黒潮の動き

表1 主な調査点の水質調査結果(表面)

調査年月日:平成19年5月7日、5月8日

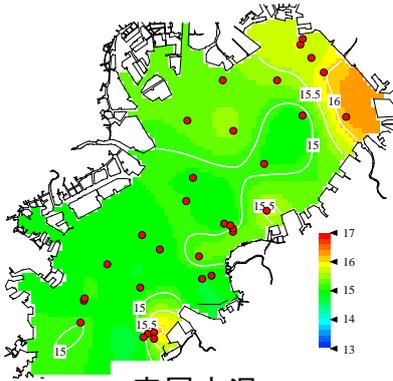
調査点	透明度	水温	塩分	pH	底層のDO (ml/L)	溶存無機 態窒素 (μg/L)	リン酸 態リン (μg/L)	アンモニア 態窒素 (μg/L)	クロロフィ ルa量 (μg/L)
船橋	1.8 (2.5)	19.8 (18.8)	27.36 (28.64)	8.6 (8.5)	5.8 (4.6)				39.4
st. 15	2.6 (2.5)	18.8 (18.6)	28.26 (28.77)	8.4 (8.6)	5.6 (4.4)				14.0
st. 3	1.8 (2.6)	19.2 (18.1)	29.25 (29.70)	8.6 (8.5)	3.2 (3.1)				24.2
st. 6	1.6 (3.3)	18.6 (17.8)	30.04 (30.45)	8.3 (8.5)	3.6 (3.1)				22.0
st. 9	4.1 (3.9)	17.3 (17.3)	30.91 (31.25)	8.3 (8.4)	4.3 (4.0)				8.3
盤洲Cブイ	3.2 (3.2)	19.0 (18.1)	31.60 (31.15)	8.3 (8.4)	5.1 (4.4)				9.7
st. 8	4.0 (3.9)	18.0 (17.5)	31.11 (31.57)	8.4 (8.4)	3.9 (3.7)				7.9
富津ベタ	4.9 (3.9)	17.4 (16.8)	31.80 (32.27)	8.2 (8.2)	4.8 (4.7)				8.8
第2海ほ下	3.0 (5.4)	17.4 (17.2)	32.16 (32.53)	8.3 (8.3)					8.4
st. 31	4.0 (6.1)	17.6 (17.3)	31.71 (32.81)	8.4 (8.3)					9.4
st. 23	13.0 (10.9)	17.9 (18.0)	34.18 (34.06)	8.3 (8.2)					0.8
st. 1	10.5 (12.8)	18.2 (17.9)	34.29 (34.36)	8.2 (8.2)					2.4
st. 10 (下洲沖)	4.5 (6.7)	17.2 (17.3)	32.52 (32.81)	8.3 (8.2)					
st. 12 (淡沖)	5.0 (5.6)	17.1 (17.3)	32.67 (33.05)	8.3 (8.2)					
st. 22 (保田沖)	11.0 (9.1)	18.3 (18.0)	34.06 (34.03)	8.3 (8.2)					
st. 24 (富浦沖)	8.0 (11.1)	18.4 (18.1)	33.96 (34.23)	8.2 (8.2)					
st. 26 (館山湾内)	12.5 (10.9)	18.6 (18.0)	33.60 (34.34)	8.2 (8.2)					

() : 過去10年間の平均値(ただし富津ベタは過去7年分)
※透明度、pHの網掛けは赤潮、DOの網掛けは貧酸素水の基準に達していることを示しています。

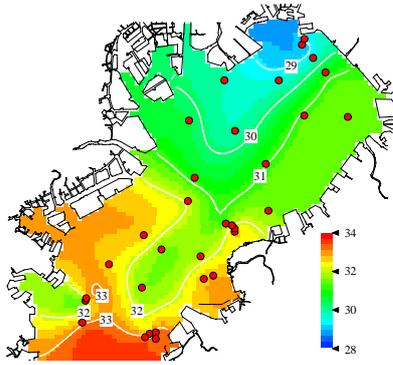
資料:東京湾水質調査(5/7:内湾(わかふさ),5/8:内房(ふさみ丸))
第三管区海上保安本部海洋情報部観測結果
海上保安庁海洋情報部(千葉灯標モニタリングポスト)
一都三県漁海況速報,東京湾口海況図

海況調査結果(4月23日、24日)

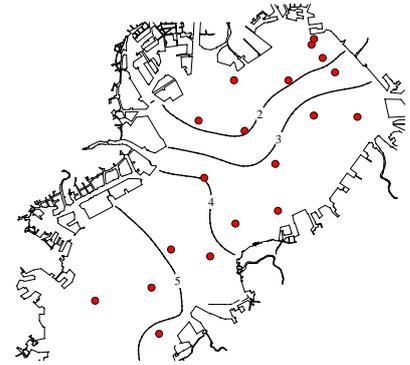
水温は、表層・底層ともにほぼ15℃前後であり、鉛直的にほぼ一様でした。塩分は、表層・底層ともに湾口からの高塩分水が神奈川・千葉両側に張り出していました。赤潮の発生は見られませんでした。主な出現プランクトンは渦鞭毛藻のセラチウム(*Ceratium fusus*)でした。また、底層に貧酸素水塊は発生していませんでした。



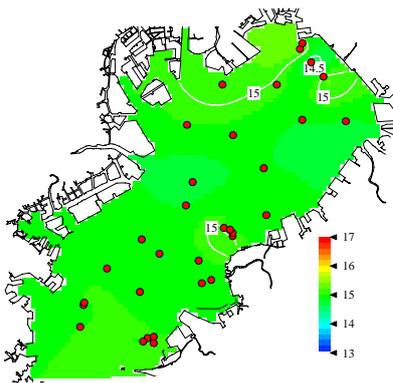
表層水温



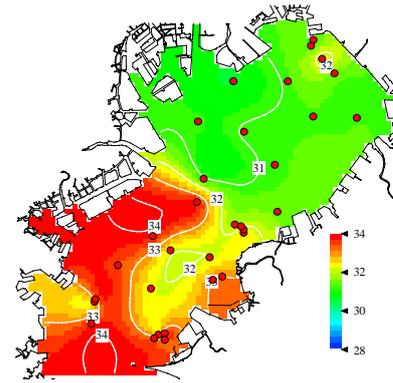
表層塩分



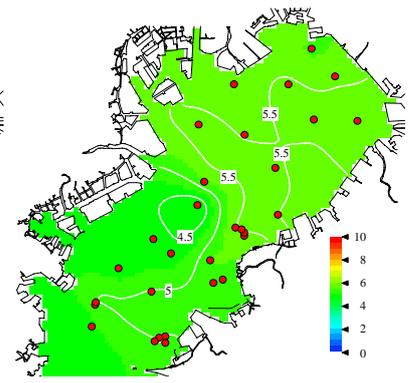
透明度



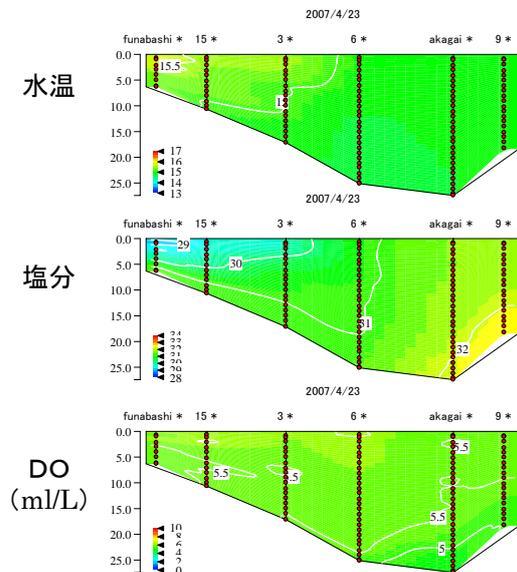
底層水温



底層塩分



底層DO



資料: 4/23内湾調査: わかふさ
4/24国立環境研究所調査結果
海上保安庁モニタリングポストのデータ